

☆☆矢野目小学校教育目標☆☆互いを大切に、笑顔で協働する子ども

令和6年度矢野目小学校 学校だより

みんなの広場 2

笑顔があふれ、明日もまた来たくなる学校

2024.9.30 発行 No.67 文責 目黒 満

☆☆自ら学び、深く考えて行動する子ども☆☆心と体を鍛え、命を大切に子ども

すっかり秋めいてきて、過ごしやすい季節となりましたが、朝夕と日中の気温差はまだ大きい日があります。普段の生活での服装や寝る時の服装、寝具等の調整をよろしくお願いいたします。

特別支援教育特集 その1

家庭と学校ががっちり手を繋ぐ2年目に

特別支援教育について ~子どもたちの多様性に応じた学びの場を~



私が教員になった40年前には、多様な子どもを含め、中・軽度の障がい等のある児童生徒を対象とした特別支援環境も整備されてきています。

昭和・平成・令和と時代が進み、人権意識の浸透や一般化、医療の発達と診断基準の明確化等により、様々な障がいのある児童生徒への適切な支援を工夫する「特別支援教育」が全国の学校で展開されています。

とても残念なことですが、昭和あるいはそれ以前から、日本では、障がいや一部の病気に対する差別や偏見がありました。令和となった今、障がいや病気、性や生き方等についても、一人一人の違い=多様性を尊重し合う社会が当たり前になってきています。

子どもたち一人一人の顔かたちや性格、身長や体重が違いうように障がいも多様であり、誰一人同じ人間は存在しないという基盤を共有し、どんな一人一人もお互いに「みんなちがってみんないい」価値のある存在として尊重される考え方に立ち、必要な支援が展開される環境を創るのが特別支援教育の考え方です。

一人一人の障がいや困難さの程度によって支援の在り方も変わります。一人一人の障がいの軽重の実態に応じて、将来を見据え社会的自立をめざした技能等を身につけていくための適切な支援を工夫していくことが特別支援教育の基盤です。

◎ 特別支援学校

重い障害があり、日常生活において介護や補助が必要な児童生徒は、特別支援学校で将来の社会的自立に向けて学ぶことができます。

- 目や耳の障がい(盲・聾)、重度知的障がい、自閉症等、社会生活上、大きな困難を抱える児童生徒が入学・就学します
 - 義務教育修了後は高等部へ進学し、将来、社会の一員として生きるための学習をします
 - 障がいに応じ、就労に必要な技能を身につけることもできます(マッサージや鍼灸、物作り等)
- 困難がそれほど小さくなく、見た目では障がいを持っているようには見えない児童生徒もいます。そ

◎ 特別支援学級

○ 対象となる障がいは8種類、学級種別は7種類

対象となる障がい	特別支援学級
知的障がい	知的障がい学級
肢体不自由	肢体不自由学級
病弱・身体虚弱	病弱・身体虚弱学級
弱視	弱視学級
難聴	難聴学級
言語障がい	言語障がい学級
自閉症	自閉症・情緒障がい学級
情緒障がい	

○ 一人一人の特性や能力、困り感等に応じた教育的配慮や合理的配慮の下で、

少人数集団での個に応じた支援を工夫しています

※ 本校には特別支援学級は未設置です
学校規模・現状からは設置が必要と考えています

◎ 通級指導学級

○ 特定分野の学習が特に苦手、集中して学習に取り組むことが苦手だったり、コミュニケーションがうまく取れない、発話・発音に苦手があったり、集団での学習や人間関係・社会性の面で困難を抱えていたりする児童生徒を対象に、週1時間、1対1での支援を原則に苦手分野の補強や社会性を育てる学習支援を行っています

通級指導学級の対象

言語障がい
自閉症・情緒障がい
弱視
難聴
学習障がい
注意欠陥多動性障がい
肢体不自由
病弱・身体虚弱

○ 福島市では、小学校に7校
中学校に3校に設置

一人一人の特性や能力・障がい等のニーズに応じ、他の児童生徒と一緒に学習と並行して個に応じた適切な学びを進め、一人一人が自己肯定感を感じ、前向きに成長できるよう支援を工夫しています。

こうした取組もあり、少子化の流れの中でも、特別支援教育対象者数は年々増加を続けています。

種別	年度	平成24年度	令和4年度
児童生徒数		1040万人	952万人
特別支援教育対象数		30.2万人	59.9万人